



郡山布引風の高原(福島県)に立つ風力発電所

「再生可能エネルギー」があるのに

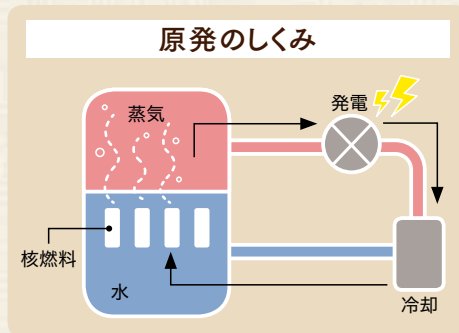
原発って本当に必要なの？

東日本大震災による原発事故は、広い範囲に大きな被害をもたらしました。パルシステムは事故の直後から、産地とともにできる限りの対策を行ってきました。ところが、事故後7年目となった今、全国で原発再稼働の動きが見られます。大量の放射能が食の安全性を脅かすような事故を再び繰り返さないためにも、原発のリスクや問題点を理解することが求められます。

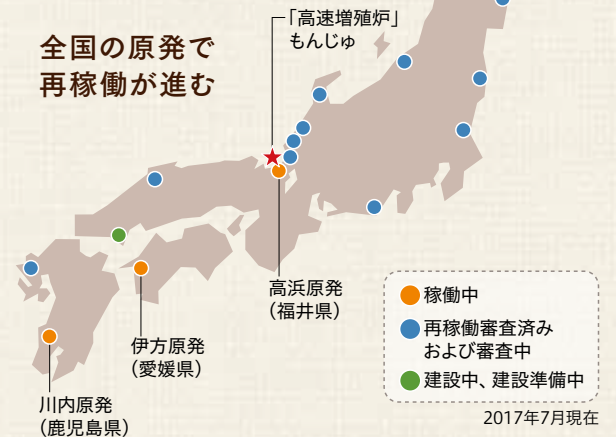
そもそも原発はどうやって発電しているの？

原子力発電は水を沸騰させる点では火力発電の仕組みとよく似ています。火力発電は燃料を燃やして水を沸騰させて蒸気をつくり、その蒸気力でタービンを回して電気をつくり、原子力発電はウランを核分裂させた熱で、水を沸騰させます。

核分裂は膨大な熱エネルギーを発生します。ウラン235は1gで石炭3t、石油2000l分のエネルギーを生み出すことができます。しかし同時に大量の核廃棄物を生み出すため、その処理が問題になっています。



全国の原発で再稼働が進む



2017年7月現在

再稼働が進められていく 運転40年以上の老朽化した原発

東京電力の原発事故後、独立性の高い委員会として原子力規制委員会(以下、規制委)が設置されました。規制委では、原子炉等の設計を審査するための「新規基準」を作成。法改正され、原則として運転開始後40年がたった原子力発電所は廃止とすることが決まりました。しかし、規制委の「特別点検」に合格すれば、最大20年間の延長が認められます。2017年7月時点で、3原発が再稼働し、13原発が再稼働の審査済み、または審査中ですが、配管などが老朽化した原発の安全性には疑問がもたれています。さらに、再稼働にともなう①地元の同意、②原発避難計画の策定、③再稼働の判断責任の所在など多くの問題は棚上げされたまま。そうした状態であっても、国は必要な電力のうち「20~22%を原子力でまかなう」と目標を定めているため、今後、再稼働をめざす動きは高まっていく見込みです。

行き先の決まっていない 放射性廃棄物

原発で燃やされたウラン燃料は、放射性廃棄物となり、依然高い放射能を有しています。この廃棄物を処理する六ヶ所村再処理工場(青森県)は、トラブルが相次ぎ本格稼働は先延ばしとなっています。

同じく再処理工場の「東海再処理施設(茨城県)」は約70年の期間と、約1兆円をかけての廃止計画が出されており、使用済み核燃料の行き先がない状態が続いています。保管場所となる「中間貯蔵施設」建設の構想もありますが、候補地は決まっています。このような状態のなか、六ヶ所村の使用済み燃料プールには3000tの貯蔵ができますが、再処理工場の稼働を見込んですでに使用済み核燃料が運ばれており、ほぼ満杯。使用済み燃料は、各原発内のプールで冷却しながら保管されている状態が続いています。

日本の原発事故から学んだ 海外の動き

東日本大震災の原発事故を受けて、これまで原発を推進してきた世界各国を含めて、国際的には脱原発へとエネルギー政策は転換しています。その代表例がドイツです。2022年までに国内にある全ての原子力発電所を閉鎖すると発表。原発の代替エネルギーとして、風力発電など再生可能エネルギーの拡大に取り組んでいます。また、ベルギーは2025年までに、スイスも2034年までに、それぞれ脱原発を実現すると発表しています。

さらに韓国の文在寅大統領は今年6月に、「日本の原発事故は、原発が安全、安価ではなく環境にもよくないことを示した。脱原発は逆らうことができない」と話し、新規原発の建設の白紙化や設計寿命を超えた運転の禁止など、脱原発を推進すると宣言しました。世界では次世代のエネルギーとして、すでに再生可能エネルギーの開発が進んでいます。

使えば使うほど燃料が増える？ 高速増殖炉「もんじゅ」が抱える問題

「夢の原子炉」は大きなリスクと背中合わせ

福井県敦賀市にある高速増殖炉「もんじゅ」は1985年から6年をかけ、国家プロジェクトとして建設されました。

ウラン鉱石から作られるウラン燃料は、その95%以上に燃えないウラン(ウラン238)が含まれていますが、もんじゅでは、プルトニウムをいっしょに燃やすことで、燃えないウランを燃えるプルトニウム(プルトニウム239)に変化させることができます。消費した以上の燃料を生み出すことができる「夢の原子炉」と期待されていたのです。

しかし、この高速増殖炉には問題が伴っていました。この反応は原子炉に水があると進まないため、冷却剤にナトリウムを使わなくてはなりません。しかしナトリウムは漏れ出すと水分で爆発するため課題が多く、本格稼働にはむすびつきませんでした。

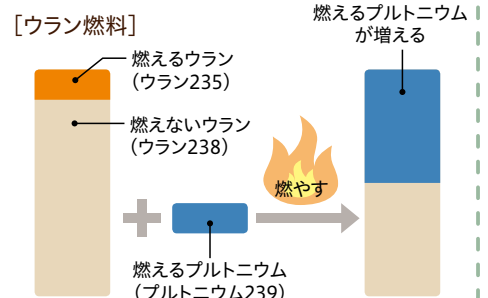
ほぼ稼働しないまま、つぎ込まれた1兆円。廃炉には3000億円以上

もんじゅは1995年にナトリウムの漏えい事故を起こし、その後も事故が発生したことから計画はとん挫し、2016年12月21日に廃炉となることになりました。これまでに1兆円以上の事業費がつぎ込まれたもんじゅ。廃炉には少なくとも30年かかり、その費用は3000億円以上にのぼるとされています。費用は私たちの世代だけではなく、今の子どもたちの世代の税金から支払われます。

未来のエネルギー政策について、今こそ幅広い議論と十分な説明を求めていくことが必要ではないでしょうか。

なぜ燃料が増えるの？

“夢の原子炉”といわれた「もんじゅ」のしくみ



放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

〈2017年度の検査数(カッコ内は検出件数)〉 2017年7月28日現在 不検出率:98.8%

青果	223 (0)	牛乳・乳製品	18 (0)	飲料水・飲料	41 (0)
しいたけ	26 (15)	肉類・卵	20 (0)	その他(加工)食品	720 (0)
きのこ類 (しいたけ除く)	36 (0)	魚介類	104 (0)	総計	1271 (15)
米	0 (0)	乳幼児用食品	83 (0)		



JAふくしま未来(福島県)で原発事故後に行われた除染作業

測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分を取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

〈検査結果:2017年度の状況〉

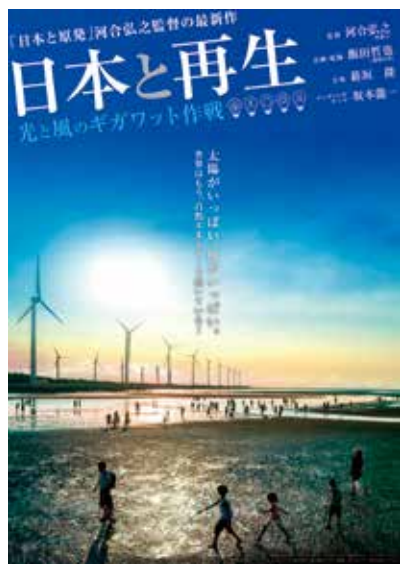
※乳幼児用食品は2016年4月より1Bq/kgに検出下限値を下げました。

青果	今年度は、放射能の検出はありません。
しいたけ	生しいたけ(6.7~16Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	今年度は、放射能の検出はありません。
米	2016年産米の検査は27産地67検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。2017年産米の検査は新米供給の開始前までに玄米で検査を実施します。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。

魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行っておりますが、すべて不検出です。
その他食品(お料理セット)	菌茸類については定期的に検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.1~8.2Bq/kg)、まいたけおよびまいたけ水煮(3.3Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ)からの検出はありません。
その他食品(大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2015年産および2016年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
その他食品	今年度は、放射能の検出はありません。

世界は「再生可能エネルギー」へとシフトしていることを「目撃」しよう! 映画「日本と再生 光と風のギガワット作戦」

制作:Kプロジェクト



本作品は、20年にわたって原発の危険を訴え、全国で原発差し止め訴訟を繰り広げてきた弁護士・河合弘之氏らが監督となって制作。河合さんは環境学者・飯田哲也氏を仲間に招き、世界各国を駆け巡り、自然エネルギーの最前線で挑戦する人々を訪ねました。電力輸出が増大するドイツ、米国防総省が進める自然エネルギー計画、原発推進国と思われていた中国の自然エネルギー事業の隆盛——。世界の自然エネルギーの活況を見に行く旅ができる本作品が完成しました。河合さんは、これまでも『日本と原発 私たちは原発で幸せですか?』(2014年)、その改訂版『日本と原発 4年後』(2015年)を制作。映画を裁判所へ証拠として提出し、裁判中に上映したことが、いくつかの裁判の勝訴につながりました。

河合さんは2作品の完成後にも、「原発を無くしたあとのエネルギーはどうするんだ?」と、自らに問い続け、本作品を制作したといいます。本作品は、パルシステムも協賛。全国で上映会が開催されていますので、ぜひご覧ください。

◎Kプロジェクト



アイスランド・ブルーラグーン。地熱を発電と温泉に利用

◎Kプロジェクト



アラブ首長国連邦アブダビ。集中型太陽熱発電所

◎Kプロジェクト



中国・内蒙。ソーラー発電

組合員の声

被爆国である日本がこれ以上放射能汚染を広げてはいけません。(パルシステム千葉)

自然エネルギーで地域が自立すれば世界平和に繋がる。(パルシステム静岡)

世界の自然エネルギーがいかに進んでいるか、学べた。(パルシステム千葉)

日本を原発ゼロに。そのために出来ることはパルシステム電力をたくさんの人に知ってもらうこと。(パルシステム静岡)

上演会予定ほか、詳しくは公式Webサイトをご覧ください。

日本と再生

検索

日本の再生可能エネルギーを応援するなら!

『パルシステムでんき』

再生可能エネルギーでの発電を推進する『パルシステムでんき』は、発電量に占めるFIT電気(再生可能エネルギー)の比率が、他社と比べて高い87.2%。太陽光発電や小水力発電を行う「発電産地」と協力しています。

FIT電気(再生可能エネルギー)比率: ※2017年度計画値

87.2%

パルシステムでんき

検索

パルシステムの自主基準(独自ガイドライン)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について自主基準(独自ガイドライン)を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。また、自主基準(独自ガイドライン)は継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)	国の規格基準
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25
しいたけ	100

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。

※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界(ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更(単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

●フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以南の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

- 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県)の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産物は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページに掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡・新潟ときめき生協

0120-868-014 月~金曜日:9時~20時/土曜日:9時~17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲府センター ☎ 0120-28-5891
西桂センター ☎ 0120-32-1061
一宮センター ☎ 0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ☎ 0120-60-5118
渋川センター ☎ 0120-36-3315
東毛センター ☎ 0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。